育休ヒント

会社から妻への手紙で夫婦で育休を考える機会に

パパの名前　浅井 慎也さん　津市

エピソード

夫より、職場で私宛の封筒を預かったと言われ、渡されました。開封せず渡すようにと伝えられていたようです。

封筒の中には妊娠祝いの言葉とともに、男性職員のための休暇・休業制度の案内が詳細に記され、取得推進の姿勢が伝えられていました。

当初は、男性の育休にはまだ理解が足りないと感じ、最低限の休暇だけでもと考えていましたが、この手紙のおかげで夫婦でしっかりと相談し、安心して育休を取得できるようになりました。夫の職場の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

ポイント

職場で親展の封書を丁寧に渡されたことが、夫婦で育休の相談ができるきっかけづくりに。職場の「理解の見える化」「伝え方」で充分に検討ができる環境をつくる取り組みが良い。

育休ヒント

子どもたちに育休取得の姿を見せることで当たり前の世界に

パパの名前　浅井 慎哉さん　員弁郡東員町　公立小学校

エピソード

小学校教員である私は、この10月から3ヶ月間の育休を取ることにしました。職場からは理解を得られましたが、担任するクラスの子どもたちに伝える際には不安がありました。育休に入る1ヶ月前、子どもたちに事情を話すと、「男の人が育児のために休むの？」と戸惑う声も上がりました。しかし、ある男の子が「男だって育児をするんだよ」と即座に答え、私は未来のイクメンがここにいると感じ、感動しました。

育休前の最終日、子どもたちや同僚から「行ってらっしゃい」と温かいエールをもらい、「父として成長して戻ってこよう」と決意しました。育休初日、初めて作ったフレンチトーストを家族に振る舞い、良いスタートを切りました。

ポイント

教育現場でも積極的に育児休業を取得することで、今の子どもたちが大人になった時、当たり前の世界に。

育休ヒント

初の育休を部署のモデルケースに

パパの名前　春名 敬太さん　津市　井村屋株式会社

エピソード

第三子の誕生を機に初めて育休を取得。部内で前例がないため、上司に申し出る際は緊張しましたが、「フォローを頼むための準備をしっかりするように」と快諾され、さらに朝礼で「この育休取得を部署のモデルケースに」と宣言していただき、その配慮に感謝しました。

職場では「ゆっくりしてください」と声を掛けてもらいましたが、育休は妻を支えるための「休業」。社会が育休を理解するにはまだ課題があると実感しました。また、妻が一番大変だったのは第一子出産後だったと聞き、初めての育児に育休の重要さを痛感。若手にも育休を積極的に取得させたいと決意しました。

ポイント

前例がないことを「モデルケースにしたい」と宣言し、育休取得の体制づくりを積極的に推進。

育休ヒント

まずは相談。周りの自然なサポートに感謝

パパの名前　三橋 善男さん　伊勢市

エピソード

私が働いていたのは老舗の小さな企業で、結婚と息子の誕生が10年ぶりの大きな出来事になりました。ベテランの多い職場で、上司や社長も最初は驚いた様子でしたが、すぐに育児休業の設定について話を進め、妻の出産前後に合わせて休みを設けてくれました。妻は帝王切開での出産が決まっていたため、予定も立てやすかったのです。当初、私の報告による影響を心配していましたが、同僚たちは自然にサポートを整え、私が育児に専念できるよう仕事の調整をしてくれました。その配慮に感謝し、会社の組織としての温かさを強く感じました。

さらに、妻の病気により私が育児を担うために、社内初のフレックスタイム制も導入され、保育園や病児保育の送迎も担える環境が整いました。働きながら育児にしっかり参加できるこの支援に感謝しています。

ポイント

小さな会社でも、相談することで、理解してもらえたこと。この例を機に、フレックスタイム制を導入するなど今の企業の参考に。

雰囲気づくり部門

育休ヒント

DXツールなどを使いこなし海外里帰り育休

パパの名前　大西 有さん　松阪市

エピソード

私の妻は外国人で、初めて孫を祖父母に見せるため、妻と私が同時期に育休を取得し、3歳の長女と生後1ヶ月の次女を連れて妻の実家に里帰りすることにしました。私は6ヶ月の育休を2回に分けて取得し、現地で育児に専念できるよう準備を進めました。すぐに会社に出社できない状況に備え、iPadやPC、Teams、Zoomなどのオンラインツールを事前に整備し、また部下が代理で業務を進められるように役割分担を徹底しました。コロナ禍でリモート会議が普及したことも追い風となり、リモートでの業務対応がスムーズにできました。

また、他社の男性も育休を取る報告を受け、少数派ではないと感じたことが心理的支えになりました。「子どもは国の宝」という先輩からの言葉に励まされ、育児が尊いものであることを改めて実感しました。

ポイント

会社でのポジションがある方は尚更、「自分でなければ」という責任感があり育休取得に踏み出せない中、DXのツールを使いこなしてどんな環境でも安心して育休を取得でき、心理的ハードルを下げる環境づくりを実施。

育休ヒント

「仕事より育児を優先する」価値観を広める存在に

パパの名前　西井 栄貴さん　松阪市

エピソード

主人は第一子の誕生前から、産まれた後も会社での飲み会やイベントの誘いに対し「小さい子どもがいるので難しいです」としっかりと伝えてくれました。大手企業では育休取得が一般化しつつありますが、中小企業ではまだ取得しづらい雰囲気が残っています。そんな中で主人が「子どもがいるので家庭を優先したい」と明確に伝えたことで、「仕事より育児やプライベートを優先してもいい」という考えが職場に少しずつ浸透し始めました。2022年9月に第二子が誕生し、その翌月に主人の会社で育休促進の取り組みが始まりました。残念ながら育休は取れませんでしたが、主人が積極的に家庭優先の姿勢を見せたことが、育休取得を促進する一助となったのではないかと思っています。

ポイント

まだまだハードルの高い育休取得。子育てやプライベートを優先することを周囲に伝え広めていくことも一歩に繋がる。

育休ヒント

同じ境遇の社員同士で助け合い、1ヶ月の育休取得を実現

パパの名前　三上 さん　桑名市

エピソード

第一子の出産は2017年。夫の働く支店で男性の育休取得は前例がありませんでした。私は里帰り後もなんとかやれるかなと覚悟していたところ、なんと会社の先駆けとして夫が5日間育休をもらうことができました。

第二子の出産は2019年。その際も里帰り後自宅に帰った時の5日間育休取得。第三子の出産は、里帰りはせず産院退院後は自宅で過ごすことに。夫の育休5日間が終わってしまえば私1人で3人育児…「不安」と「なんとかなる」の行ったり来たり。夫に相談したところ、上司や同僚の協力で育休や在宅ワークを駆使して、1ヶ月家で過ごせることに！なんと似た時期に妻が出産を控えた同僚が3人もいたらしく、お互いに状況報告をし合いながら仕事を調整してくれたそうです。夫と1ヶ月も一緒に過ごせたのは私も初めてで、2人で新生児の貴重な時間を共に過ごせたことがかけがえのない経験になりました。育休取得に理解を示してくれた上司、同僚、夫に本当に感謝しています。これからもっと育休が当たり前に取れる世の中になっていくことを願っています。

ポイント

5日間の育休は取得していたが、1ヶ月間取得するために、同僚と協力し在宅ワークを駆使して実現することができた。

イクボス部門

育休ヒント

育休をスムーズに取得できる環境に

パパの名前　浜田 浩史さん　鈴鹿市

エピソード

第二子の誕生時、私は1ヶ月の育休を取得しましたが、上司からのサポートがほとんどなく、業務の引き継ぎや調整をすべて自分で行う必要がありました。リーダーとしての責任から育休直前は通常以上に働き、復帰後も仕事と育児の両立に苦労しました。この経験から職場サポートの必要性を痛感しました。第三子の誕生時には上司が女性に代わり、育休の重要性を理解して全面的に支援してくれました。不要な業務の削減や複数人体制の導入により、育休準備が格段にスムーズに。心から安心して育児に専念でき、職場のサポートの重要性を改めて感じました。

今後は自分も後輩や部下の育休取得を支援し、職場全体で両立がしやすい環境を整えたいと考えています。

※画像はイメージです

ポイント

女性上司が積極的に推進。不要な業務の削減や複数人体制の導入により、育休準備が格段にスムーズに。

育休ヒント 最寄り店舗への異動＋育休取得の推奨

パパの名前 井上 大知さん 名張市 百五証券株式会社

エピソード

2歳の長女に加え、双子のパパとなり、仕事と育児の両立に不安を抱えていた私。しかし、会社側が最寄り店舗への異動を手配してくれたおかげで、通勤時間が短縮され、育児に専念しやすくなりました。さらに、着任早々にもかかわらず育休取得も快く承諾してもらい、「パパ業も貴重な機会だ」との温かい言葉や「長女への対応も気を抜くな！」という励ましもいただきました。職場のサポートを通じて、家族と向き合う大切さを改めて実感しました。会社の配慮と職場の皆様の理解に心から感謝しています。この経験を通じ、仕事と育児の両立には職場のサポートが不可欠であると痛感しました。

今後も家族と過ごす時間を大切にしながら、育児と仕事を両立していきたいと思います。

ポイント

会社が最寄りの店舗へ異動を手配してくれたことで、育児に関わる時間が増え、同時に職場への感謝が深まるきっかけに。

育休ヒント 子どもの行事参加を後押ししてくれた上司に感謝

パパの名前 松本 樹さん 鈴鹿市 宮古島株式会社

エピソード

転職して間もない頃、幼稚園の運動会が近づく中で仕事が忙しく、参加を諦めかけていました。帰宅すると子どもが楽しそうに練習の成果を話してくれる一方、休める状況ではないと心の中で申し訳なく感じていました。そんな時、上司から「運動会は毎年あるが、幼稚園年少の運動会は一生に一度しかない。仕事はみんなで分担すれば大丈夫だ、運動会に行ってこい」と言われ、驚きと感謝で胸がいっぱいになりました。その一言で、子どもの成長を見守る大切さや、仕事は仲間と協力することができると気づかされました。それ以来、家族の行事や旅行の際には「行ってこい！」と仲間が背中を押してくれ、帰ってくると「どうだった？」と話を聞いてくれます。

この経験から、家族との時間を大切にしながら働ける職場に感謝しています。

※画像はイメージです

ポイント

企業が親子にとってのかけがえのない時間をどれだけ理解してくれるかが重要。子どもの行事に「申し訳ない」と思わずに参加できる職場環境を作ることで、仕事と子育ての両立を応援している。

育休ヒント 心強い上司のサポートで安心して育休を取得

パパの名前 康村 耕平さん 鈴鹿市

エピソード

入社5年目で、一人で責任を持つ業務が増えていた私は、育休を取ることで周囲に迷惑をかけるのではないかと不安でした。上司との面談で軽く「予定日が金曜なので土日でサポートします」と伝えたところ、「休みを取る前提で引継ぎして、遠慮なく休んで。みんなで何とかする」と即答。さらに、上司は育休手当や会社制度の資料を揃え、私のために準備を整えてくれていたことに驚きと感動で涙がこぼれそうになりました。上司から「会社携帯は置いて行け。先方も応援してくれている」との言葉を受け、改めて職場の支えを感じました。後に、海外の関係会社からもお祝いの連絡をいただき、その心遣いに深く感謝しました。

この経験から、育休を取る人がいる際には自ら業務を引き受け、恩返しをしています。人に親切にすることの大切さを教えられた出来事でした。

ポイント

上司が育休手当や会社制度の資料を揃え、育休のために環境を整備。この経験が次の育休取得者へ繋がり、輪が広がっている。

育休ヒント 給与面や生活費など聞きづらい不安の相談役に

パパの名前 宮城 正道さん 津市

エピソード

1年間の育休を取得した経験から、後輩に「いつでも育児の相談をしてほしい」と伝えていました。すると、ある後輩が子どもができたことを報告し、育休取得について給与面での不安を打ち明けてきました。私は、自分の経験をもとに、育休の申請方法や給与計算の仕組み、賞与への影響などを丁寧に説明しました。さらに、自分が育休中にかかった1ヶ月の食費や雑費なども具体的に伝え、後輩が実生活に即した見通しを持てるようサポートしました。

このサポートのおかげで、後輩は家族と相談し、自分で1ヶ月の費用を計算して、2ヶ月の育休を取得する決断に至りました。こうした経験共有が後輩の不安を軽減できたことに、私自身もやりがいを感じています。後輩の育休取得を支えることができ、育児支援の大切さを改めて実感しました。

ポイント

生活費や給与面の不安に寄り添って相談に乗れる先輩の存在が、育休取得の良い連鎖に繋がっている。

イクボス部門

育休ヒント

育休への理解が深まり 2回目取得にも意欲的に

パパの名前 梅本 信太郎さん　伊勢市

エピソード

4年前、第一子の際に思い切って育休取得を相談した際、会社には男性の育休取得に前例がなく、周囲からも「男性がそんなに長く…？」という雰囲気がなかった訳ではありません。取得後は「育休を取った人がいる」と次第に広がるとともに理解も深まり、現在は会社のイメージアップになっていると言っていただいたときは、自分が何かしたという気持ちではなく、会社への感謝の気持ちでいっぱいでした。第二子の誕生前にどれだけの期間取得するか決めかねていると「半年？1年とる？ こっちはなんとかするから」と温かく送り出してくれました。

1回目の取得後、離乳食は妻に任せきりだったなと次々思い浮かぶ反省点を今度はもっと活かさなければと実感しています。

ポイント

第一子での育休取得が社内で育休取得推進の大きなきっかけとなり、現在はイクボスによる長期取得の勧奨に繋がっている。

私の育休バナシ部門

育休ヒント

子どもが12歳になるまで 残業ゼロ・転勤なし

パパの名前 藤田 康志さん　鈴鹿市　イオンリテール株式会社

エピソード

子どもの出産育児のためにパパが1年間育休を取得。1年取っていると言うと皆に驚かれて、まだまだ男性の育休取得は浸透していないと感じます。おかげで夫は子育ての多くのことができ、安心して子どもを預けられます。夫は私が不安になった時も共に悩み、調べて支えてくれたため、子育てが辛いと感じることなく、夫婦仲も良くなりました。1歳の誕生日を迎え、夫が職場に復帰しましたが、夫の職場では育児勤務制度が整い、子どもが12歳になるまで残業がゼロで転居を伴う転勤もありません。夫が安定した帰宅時間で子どもとの時間を確保でき、私も安心して生活を送れています。パパが育休を取るには本人の意思だけでなく、会社の協力が不可欠です。なぜママは1年取得が当たり前でパパは難しいのか、生まれた子どもは夫婦の子どもであり、会社の理解とサポートの重要性を痛感しています。

ポイント

2人での子育てを大切にするパパママの思いと、それを制度面でも応援してくれる会社。良好な関係が築かれている。

育休ヒント

妻からの相談がきっかけとなり 「産後パパ育休」を取得

パパの名前 藪木 崇浩さん　伊勢市

エピソード

2022年11月、2人目を出産した際に「産後パパ育休」を利用しました。1人目の時は「男性が育休なんで…」という世間の雰囲気に圧倒され、夫の育休を諦めていましたが、今回改めて夫に相談。最初は「会社に前例がない」と消極的でしたが、育休を初めて取得させた企業には助成金が出ることや、福利厚生として記載できるメリットを伝え、上司に相談したところ、無事に4週間の育休が承認されました。上司の「家族が大事！」という言葉が心に響きました。新生児期間中は夫と一緒に沐浴やおむつ交換をし、上の子の保育園のお迎えも交代で行い、産褥期を夫に支えられました。この期間を共に過ごせたことは一生の宝です。

パパが家族と過ごす時間の大切さを多くの人が理解し、社会全体で子どもの成長を見守れる世の中になることを願っています。

ポイント

ママの働きかけで、パパが動き、さらに会社がその希望に応え実現。

育休ヒント

育休復帰時の同僚からの温かい言葉に感謝

パパの名前 井豫 規人さん　多気郡明和町 生活協同組合コープみえ

エピソード

当初、育休を取ることは職場に迷惑をかけると考えていましたが、相談したところ「パパ育休」という制度を紹介してもらい、快く受け入れてもらえました。育休取得後、命がけで出産してくれた妻と息子との生活が始まり、毎日が新鮮で幸せでした。とはいえ、不安や疲れもありましたが、職場からの前向きなサポートのおかげで、仕事を忘れて育児に集中できました。

ただ、育休中に異動が決まり、新しい職場に復帰初日から休むことに不安を抱えていました。しかし復帰時には同僚から「よく頑張ったね」と温かく迎えられ、感動しました。育休取得に対する偏見もなく、社会に浸透していることを実感。育休を通じて家族と過ごす時間の大切さに気づき、職場への感謝と恩返ししたい気持ちが生まれました。パパ育休を悩む人には、胸を張っておすすめします！

ポイント

「職場に恩返ししたい」という気持ちがお互い様の連鎖になれば、子育てしやすい職場、社会に繋がっていく。